蕨の未来を考える
“市民ワークショップ”

提言書

目　次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
市民ワークショップからの提言・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第１班より　テーマ１　子どもの未来が輝くまち・・4
第２班より　テーマ２　快適で安全・安心なまち・・10
第３班より　テーマ３　にぎわいのあるまち・・・・16
第４班より　テーマ４　みんなで支え合うまち・・・22

2023 年（令和５年）１月

はじめに

蕨の未来を考える“市民ワークショップ”とは？

- 私たちが暮らす蕨市では、現在、新たな「将来ビジョン」づくりが進められています。この新たな「将来ビジョン」は、市政運営の基本指針となるものであり、蕨市の未来を見据えるとても大切な計画です。
- 私たち“市民ワークショップ”は、無作為抽出による市役所からの参加呼び掛けに応じた２５名(※)から構成されています。性別や年齢だけでなく、住んでいる地域や出身地、出身国など、バラエティに富んだメンバーです。
- 私たちは５回にわたり話し合いを重ね、未来の蕨市への想いを次ページからはじまる提言にまとめました。話し合いは、テーマごとのグループディスカッション形式で行いました。テーマと開催スケジュールは、次に示すとおりです。
- 「未来を実現するために必要な取組」が、私たち市民と市役所との協働のもとに進められ、すばらしい『未来の蕨市』が実現されることを願っています。

（※）グループ編成前のみ参加した方を含む。

テーマ

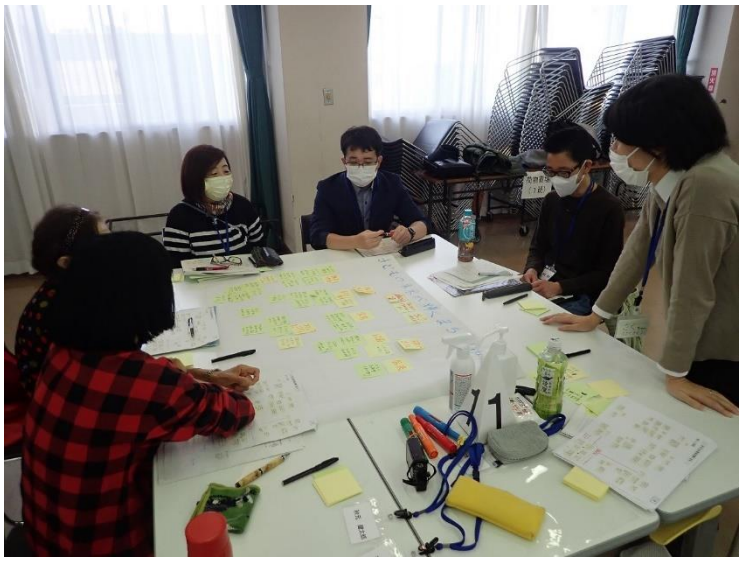
「１　子どもの未来が輝くまち」
「２　快適で安全･安心なまち」
「３　にぎわいのあるまち」
「４　みんなで支え合うまち」

開催スケジュール

	日　時		場　所	内　容
第１回	令和４年 ９月１９日(月・祝)	午後１時半 ～４時半	中央公民館	蕨市の現況、自己紹介と簡単な意見交換
第２回	１０月２２日(土)	午後１時半 ～４時半	中央公民館	蕨市の魅力や課題を整理、目指すべき蕨市の姿を検討
第３回	１１月１２日(土)		福祉・児童センター	蕨市の目指すべき姿、実現するための取組　等
第４回	１２月１１日(日)		中央公民館	実現するための取組、市民・地域で協力すること、提言のまとめに向けて　等
第５回	令和５年 １月２９日(日)	午後２時 ～４時	文化ホールくるる	成果発表

市民ワークショップからの提言

第１班　テーマ１　子どもの未来が輝くまち



〈メンバー〉
敬称略・50 音順
岩井　美恵子
奥田　雅彦
斉藤　寿美子
西元　光子
松本　浩昌

第２班　テーマ２　快適で安全・安心なまち

〈メンバー〉
敬称略・50 音順
井野　千賀子
今堀　佳代子
川野　耕三
関根　未希
坪井　真
ピッツァート　キアラ

第３班　テーマ３　にぎわいのあるまち

〈メンバー〉
敬称略・50 音順
大島　耕児
大森　隆史
平林　千明
前川　武司
三浦　雅典
李　春玲

第４班　テーマ４　みんなで支え合うまち

〈メンバー〉
敬称略・50 音順
小木曽　保
小林　惠子
白石　良恵
田上　洋輔
張　瓊
高　凱

第１班より　テーマ１　子どもの未来が輝くまち

私たちの想い　～提言の背景と概要～

- 私たち第１班は、「子どもの未来が輝くまち」というテーマで話し合いました。ひとくちに「子どもの未来」といっても、子どもを取り巻く環境には様々な要素があり、話し合いの切り口も多岐にわたります。
- そこで私たちは、話し合いの切り口を大きく「子育て」と「教育」としたうえで、メンバーの関心事をもとに、「部活動」や「教育内容」、「公園」や「コミュニティ」などへと、話し合いを広げていきました。
- 私たちの蕨市では高齢化が進んでいますが、未来の蕨市は、やっぱり『子育てしやすいまち』であってほしいと思います。蕨市のコンパクトさと、コミュニティの良さを活かして、子育て世代の定着と流入を目指しましょう。
- 蕨市の子どもたちが、蕨を愛する蕨 LOVE な子、自立できる子に育つよう、コミュニティ全体で子どもたちの成長を見守らなくてはいけません。みんなで力を合わせ、『子どもの未来が輝くまち』を実現しようではありませんか。

【現況と課題】

１．部活動は大切な機会ですが、より良く改善できないでしょうか。

❖ 部活動は子どもの成長にとって貴重な機会ですが、まず選択肢が少なく、また興味のある部活動であっても、専門的な知識や熱意を持った指導を得られるとは限らないのが現状です。

〈主な意見〉
・部活動は子どもの意欲、関心、能力を伸ばすための大切な機会である。
・中学校の部活動の種類が少なく、原則、何らかの部活動に入る必要がある。
・部活動の担当教員が必ずしも、専門的知識や技能を持っているとは限らない。
・学校単位にこだわらず、小さい市ならではの垣根のない横断的な部活動としてはどうか。

２．蕨市の特徴を活かした、時代に即した教育が必要です。

❖ 都市部のため教育の選択肢は多いものの、家庭環境による教育格差を無くすことが求められます。また、市内の学校どこでも、子どもの将来に役立つ能力や経験を身につけられるようにすることが必要です。

〈主な意見〉
・東京に近いため教育の選択肢は多い。
・小さい市のため、行政の対応の速さが良い。
・経済的な理由など家庭環境によって教育格差がある。
・ヤングケアラーへの支援が必要。誰も孤立しないことが大切。
・高校へ進学したいのに経済的な理由で進学できない子どもへの支援が必要。
・時代に即した教育を展開できているか疑問がある。ICT の活用だけではなく、個々のパソコンスキルに応じた ICT 教育（プログラミング等）が必要。
・食育として給食食材等の生産者の話を聞く機会も重要。

３．公園は数多くありますが、子どもたちにとって使いやすいでしょうか。

❖ 公園は小さいものが多く、禁止事項があるため、子どもたちが自由に使いづらい状況です。

〈主な意見〉
・公園の数は多いが、小さいものが多い。
・ボール遊び禁止など使いづらいものが多い。

４．蕨市で子育てしたくなるまちづくりが必要です。

❖ 蕨市では、すでに子育て支援の様々な取組が進められているものの、子育て世代が孤立しないよう、妊娠期から産後、子育て期間中のケアや見守りが求められます。また、蕨で子育てしたいと思える保育や教育等の環境の充実が必要です。

〈主な意見〉

・すでにいろいろな取組がされている。（すくすく学級、わらび学校土曜塾、プレーパークなど）

・産後ケアは昔から手厚い。

・子育ての孤独を無くす取組が必要。

・子育て世代が住みやすいよう、駅近の保育園、地元で働ける場所、小中学校教育の充実が必要。

５．子育てしやすい、子どもが育つコミュニティが大切です。

❖ 新しい住民や外国から来た住民も含め、子どもや子育て世代が地域イベント等により参加しやすくすることで、地域のつながりの中で子どもを育てていくことが重要です。あわせて、大人自身が地域との関わりを持ち続けられることが求められます。

〈主な意見〉

・比較的、町内会や地域の行事が多く子どもが参加できる。一方、事前に知らされないことも多く参加しづらい。

・子育てを終えると地域とのつながりが無くなる。

・小さい頃のつながりは、大人になっても継続する。

・外国から来た方が多いので、異文化への理解を深めたい。

目指すべき蕨市の姿

子育て世代が住みやすいまち

❖ 蕨市のコンパクトさと、コミュニティの良さを活かして、子育て世代の定着と流入を目指します。既存の施設を活用し、機能を見直すことで利用価値を高めたり、ハコモノではなく人材に費用をかけることを重視します。

❖ また、蕨市の子どもたちが、蕨LOVEな子、自立できる子に育つよう、コミュニティ全体で子どもたちの成長を見守ります。

未来を実現するために必要な取組

１．子どもファーストの部活動を展開しましょう。

❖ 小さい市だからこそ、学校の垣根を越えて、全市一括の部活動としてはどうでしょうか。子どもたちがやりたい部活動を自由に選ぶことができ、適切な指導を受けられる環境づくりを提案します。

〈主な意見〉

・学校単位でなく､全市一括の部活動とする。音楽や芸術､スポーツなど､分野に長けた先生が教える部活動に、学校の垣根なく興味のある生徒が参加できるようにする。

・特に、競技人口が少ない部活は全市統合する。ただし、例えばサッカー部など、どの学校にもある部活動は、全市一括にせず、より多くの子どもに大会出場の機会をつくる。

・専門的な知識や技能を持った人材をオーディションで選び、顧問になってもらう。

２．グローバル化に合わせた教育を展開しましょう。

❖ 子どもの将来に役立つ能力や経験を身につけるための教育を重視し、また、外国人住民の多さを活かして、多様な文化への理解を深める教育の展開を提案します。

〈主な意見〉

【自由で、生きる力をつける教育を】

・子どもたちが自由に意見を言いやすいよう、車座の教室とするなど、モデル校を指定し実践を始める。

・ICT、金融、法律、食育など社会で必要となることを、外部の専門家から学ぶ機会をつくる。

・ICT 教育では、プログラミングなど論理的思考を養うことを重視する。

・食育では、生産者の顔が見える食育を推進する。

【多様性を認め合う教育を】

・外国籍の子どもも「蕨の子」として馴染むよう異文化や多様性を学ぶ機会をつくる。

・総合学習の時間に地域の外国人を招いて学ぶ。

・給食で各国の料理の日を作って、異文化に親しみを持つ。

【大人になる経験としての労働体験を】

・既存のワーキングウィーク（職業体験の日）は貴重な体験なので実施回数を増やす。

３．教育への投資をしましょう。

❖　経済的な理由で進学を諦めざるを得ない子どもの支援を提案します。

〈主な意見〉

・意欲のある人に重点配分する。高校生が予備校に通う費用の支援を充実させる。

４．公園の機能を特化して利用しやすくしましょう。

❖　子どもたちがもっと自由に遊びやすい公園としてはどうでしょうか。

〈主な意見〉

・小さい公園が多く使いづらいため、各公園の機能を特化して使いやすくする。例えば、小学生のボール遊び場、壁打ち、キャッチボール、自転車練習など、各公園でできることを決める。

５．いつまでも元気で活躍できるよう、子どもの頃からの健康づくりを支援しましょう。

❖　子どもたちの健康はもちろんのこと、地域の大人たちが健康に過ごし、地域での活動等に参加できるよう、健康マイレージなど市の健康づくりの取組を PR し、参加者を増やしてはどうでしょうか。

〈主な意見〉

・高校生まで入院費無料という事実が知られていないので、アピールする。

・高齢になっても未病で医療費がかからないよう、日常生活を続けるための運動機会を提供し、運動ポイント（健康マイレージ）を付与するなど、市民に若い時から運動の大切さを意識付ける。

６．子どもの成長をコミュニティで見守り、支えましょう。

❖　子どもの成長を促し、子育て世代を支えるため、市内の様々な取組やイベント等をわかりやすくするとともに、地域のより多くの人の力を活かせるようなシステムづくりを提案します。

〈主な意見〉

・地域の困りごと（草刈りなど）のお手伝いを中学校で募集し、ボランティアポイントを付与する。

・教育現場に協力できるボランティア人材登録制度を充実させる。

・親の就労状況に関わらず、子どもの放課後の居場所をつくる。（放課後に勉強を教えるなど）

・教員の負担を減らすため、学校行事や事務は地域の高齢者がサポートする。

・市民全体でボランティア活動をするなど、地域で活躍する人材を増やす。

・地域で縦のつながりができるような行事を行う。
・地域のイベントに参加しやすくするため、いつ、どんなイベントがあるのか、調べやすいようシステム化する。

取組実現のために

- 私たち第１班は、「子育て世代が住みやすいまち」に向けて、「子育て」全体を見渡す横断的な体制が必要と考えます。子育てには、行政（市や県、国）はもちろんのこと、地域の多くの人の力が重要です。
- 例えば、隣近所の人、保育や教育の現場の人、保健、医療、福祉に関わる人のみならず、ICT や金融はじめ専門的な知識や技能を有する企業や地域の大人、地域で何か役立ちたいと思っている人など、地域に関わる多くの人が一緒に、子どもたちの成長を支えていくことが大切と考えます。
- 市内ではすでに、子育てに関するいろいろな組織や団体が活動していますが、縦割りのボランティア登録制度などにより、個々の活動が分断されているため、活動に参加したい人にとっても、子育て支援を必要とする人にとっても、わかりにくいと感じます。
- 子育てに関する活動を一元化し、横串のボランティア登録制度として見えやすくすることで、活動に参加しやすくなり、マッチングにより興味のある人をつなげることができます。また、各団体の活動やイベント等への子育て世代の参加促進にもつながります。
- この「子育て」全体を見渡す横断的な体制づくりには、市の関わりが欠かせません。子育て世代が住みやすいと感じられるまちとするため、地域の人が子育てにより関わりやすい仕組みづくりが必要ではないでしょうか。

第２班より　テーマ２　快適で安全・安心なまち

私たちの想い　～提言の背景と概要～

- 私たち第２班は、「快適で安全・安心なまち」というテーマで話し合いました。「快適で安全・安心」な蕨市を実現するため、防災・防犯、安全を中心に話し合いを進めました。
- メンバーには、小さな子どもがいる方や、地域における防災力の向上に向け日頃取り組まれている方がおり、「交通安全」や「防災」、このほか「環境」「情報発信」などが話題になりました。
- 私たちの蕨市は、平坦な地形であることが特徴です。自転車の利用者が多く、“ひやりはっと”と感じる場面もあるため、自転車マナーの向上が大切だと感じています。また、コンパクトな蕨市だからできる地域を跨いだ防災対策や、外国人が多いからこそ求められる情報発信のあり方など、「蕨市だから」できる・求められる取組を、という視点が大切だと考えました。
- そこで私たちは、蕨市の特色である「コンパクト」「平坦な地形」「多様な文化」を前提として、これに情報発信を加え、『新しい蕨の安全・安心・文化』をコンセプトとした取組を提案します。ぜひ、「快適で安全・安心な蕨」を実現しましょう。

【現況と課題】

１． 交通安全の確保は、蕨市にとって重要なテーマです。

❖ 蕨市は、地形が平坦であるため、自転車の利用者が多い印象です。見通しの悪い道路や歩く人にとって利用しづらい道もあるため、安全・安心な道路づくりが必要です。また、自転車のマナー講座等、市民の安全・安心意識の醸成が大切です。

〈主な意見〉

・蕨市の特色として、地形が平坦であり、自転車の利用者が多い。

・一方、見通しの悪い道もあり、横断歩道も少ないので、歩く人にとっては利用しづらい道が多い。

・警察による巡回を実施している際、自転車のマナーを注意された。その際に改めて交通ルールを学ぶことができたので、継続して実施することで市民が交通ルールを学ぶ機会になるのではないか。

２．コンパクトな蕨市だからこそできる助け合い（防犯・防災対策）が重要です。

❖ 単身高齢者が多い地域では、防災・防犯に不安を抱えている人がいます。町内会が身近にある蕨市では、市民の支え合いが緊急災害時対策や日常的な防犯対策につながります。防災では、「自助」「共助」「公助」の考えをもとに、まずは自分たちで災害のことを考え、日常的にお互いのことを気に掛けることが大切です。

〈主な意見〉

・減災に必要なことは、まずは自分たちで災害のことを考えること。防災、減災のための取組として、「自助」「共助」「公助」が大切になる。

・コンパクトな蕨市だからこそできる防犯・防災対策、例えば、事前にどこに誰が住んでいるか把握して見守り体制を構築したり、災害時に高齢者が多い地区に隣の地区から人を派遣して避難を手助けするなど、地域間のつながりを活かした対策が必要ではないか。

・子どもから大人まで災害について考える機会が必要である。

３．地域特性を踏まえた環境美化活動が大切です。

❖ 地域ごとにゴミの収集日が異なる蕨市では、ゴミ捨てルールが浸透していない実情があります。特に、新しく転入してきた方や外国籍の方などへの環境美化意識の醸成が必要になります。また、ゴミ出し当番には高齢のため活動が難しい家庭もあるため、地域特性に応じた柔軟な環境美化活動が重要になります。

〈主な意見〉

・地域の文化（ゴミゼロ運動など）を活かした環境美化活動を実践してほしい。

・市内のゴミ捨て場は各地区で曜日が決まっており、当番制でゴミ捨て場を管理している場所が多い。ゴミ捨てのルールが市民に浸透してない。（ゴミを捨てる日は、１週間に２日にも関わらず、ルールを守っている人が少ない。）

・高齢の方たちでゴミ出しが難しい人が多い。また、町内会ごとにゴミ当番がいるが高齢化のため、活動が困難な人もいる。

４．外国人を含む市民に、情報は広く伝わっているでしょうか。

❖ 災害時では、正しい情報に従って、自分の身を守ることが大切になります。事前に防災情報を把握して、緊急時に備えることが大切ですが、情報が広く市民に伝わっていないのが現状です。

〈主な意見〉

・避難所を知らないなど、防災の情報が市民に行き渡ってない。特に、新しく蕨市に引っ越しをしてきた人が情報を把握するのが難しい。

・ハザードマップ等の防災情報紙に記載されている日本語は、専門的な言葉が多い。外国人や子どもに向けた防災研修が必要ではないか。

目指すべき蕨市の姿

新しい蕨の安全･安心･文化

①安心 交通ルールが守られ安全なまち

②防災 みんなが防災の知識があり、災害時の備えがしっかりしたまち

③環境 心地よい生活が続くまち

＋ ④情報 すべての人に情報が届くまち

- 「新しい蕨の安全・安心・文化」をコンセプトに、上記の３つ「安心」「防災」「環境」の目指すべき姿を描きました。
- 目指すべき姿を実現するためには、蕨市の特色である「コンパクト」「平坦な地形」「多様な文化」を前提にして取組を考える必要があります。
- そのため、４つ目として「情報」についても目指すべき姿を考え、すべての人々（言語、障がい、高齢者など）に届く・伝わる情報発信を追加しました。

未来を実現するために必要な取組

- 10 年後に目指すべき姿を実現するためには、未来の大人である子どもたちに伝え・学び・実践してもらうことが大切だと考えます。また、防災や安全・安心に関わる取組は、日頃の生活で継続して、はじめて実ることが多いです。
- そのため、私たちは、次の２つのキーワードに基づいて「未来を実現するために必要な取組」を考えました。

『子どもからはじめる』
『楽しく取り組める』

１．学校の学習プログラムに防災・防犯を組み込みましょう。

❖ 蕨市の未来を担う子どもたちに“継続的”な防災・防犯体験プログラムを提供してはどうでしょうか。小中学校の学習プログラムに学び、体験学習できる機会を組み込むことで、子どもから親、親から周囲の人たちへ防災の輪を広げます。

〈主な意見〉

・学校の総合の授業(学習プログラム)で、楽しく防災や交通ルールを“継続的”に学び、体験し、実践できる機会を充実させる。その際、子どもたちが楽しく学べるよう、大荒田交通公園を活用して小中学生の実習を行ったり、課外活動として授業の中に取り入れるのもよい。

・授業の講師には、わらび防災大学校の卒業生を呼び、子どもたちが座学や体験する機会をつくることで、子どもから親、親から近所の人など、防災力や交通マナーの向上につながる。

２．子どもたちと防災マップづくりを実践しましょう。

❖ 防災情報には専門的な言葉が多いので、実際に体験できる機会づくりとして、「まち歩き」や「防災マップづくり」はいかがでしょうか。子どもたちと協力して、まちの中にある災害時に必要なもの（消火器や AED）や避難場所等を確認しながら、一枚の地図にまとめていくことを提案します。

〈主な意見〉

・防災は、ハザードマップ等の情報紙だけでは理解できないことが多い。

・市民に実際に体験をしてもらうために、「防災について学べるまち歩き」や小学生と協力しながら作る「みんなで作る防災マップづくり」がよいのではないか。

３．環境保全に協力した市民に「ポイント」を付与しましょう。

❖ 環境保全に向けた取組は、地道にコツコツとした意識が大切です。市民が“楽しく”、“お得に”取り組める案として、環境保全対策×織りなすポイント付与はいかがでしょうか。子ども・大人でポイントの特典を工夫して普及を図ります。

〈主な意見〉

・環境配慮に向けた取組は地味で浸透しにくいものが多いため、誰もが楽しく（お得に）取り組めることがまずは大切である。環境保全に協力した人に「織りなすポイント」のようなポイントを付与して、ポイントの使い方を工夫（子ども向けポイント：ワラビーのグッズとの交換、市からの表彰状など　大人向けポイント：商店街で使える商品券との交換など）することで子どもも大人も取り組めるようにする。

４．楽しく捨てる、実用的なリサイクルアート活動を進めましょう。

❖ ゴミ捨てマナーの向上を図るために、子どもたちがゴミ捨て場をデコレーションしたり、市内のゴミを使った“実用的な”リサイクルアート（ベンチや椅子など）を近所のバス停や公共施設等で展示して、市民が実際に使ってみるのも面白いです。

〈主な意見〉

・場所によってはゴミ捨てのマナーが守られていなかったり、捨てる場所が汚かったりと、ゴミを捨てる人も管理する人も大変な場所があるので、幼稚園児～小学生がデコレーションした「捨てるのが楽しくなるゴミ捨て場」を作ることで、ゴミ捨てマナーの向上を図る。

・中高生や市内外のアーティストが、ゴミをリサイクルアートとして活用、空きスペースや公民館等で展示したり、実用的なリサイクルアートとして市民が使うことで、ゴミ捨てのマナーの向上やゴミ削減に向けた意識の醸成を図る。

５．五感で感じる防災体験をしましょう。

❖ 市民に伝わる防災情報を発信するために、視覚的にイメージしやすい防災ビデオの作成や、言葉を越えた防災体験の取組を提供してはいかがでしょうか。楽しく学ぶために多言語で蕨市独自の防災の歌を作っても良いと思います。

〈主な意見〉

・防災は、ハザードマップ等の情報紙だけでは理解できないことが多い。

・五感で伝わりやすい情報を発信するために、映像系学生(映像系)とコラボしたわかりやすく魅力的な防災ビデオをつくったり、多言語で防災の歌をつくるなど、すべての人に防災の情報が行き届く工夫をしたらどうか。

取組実現のために

❖ 私たち第２班が提案する「新しい蕨の安全・安心・文化」を実現するためには、子どもたちに伝え・学び・実践してもらうこと、それから、地域の大人たちも含めて日頃の生活で継続することが大切だと考えます。

❖ このため、２つのキーワード『子どもからはじめる』『楽しく取り組める』に基づいて、取組実現のためには、市民・地域（わらび防災大学校の卒業生／蕨市内の学校の先生／子どもたち（保育園・幼稚園児、小中学生）／町内会）と、市（消防・救急、防災担当課、広報広聴担当課）などの積極的な取組と幅広い協働が必要だと考えます。

第３班より　テーマ３　にぎわいのあるまち

私たちの想い　～提言の背景と概要～

- 私たち第３班は、「にぎわいのあるまち」というテーマで話し合いました。ところで、そもそも「にぎわいがある」ってどんな状態でしょうか。また、「にぎわう」のは「蕨の街」でしょうか、「蕨に暮らす人の心や生活」でしょうか。
- 私たちは、まず、「にぎわいのあるまち」というテーマから連想される事柄について、いろいろな角度から議論しました。例えば、「市外から人を呼ぶにぎわい？」なのか「蕨市民のにぎわい？」なのか、などです。
- 私たちが暮らす蕨市では、かつて、大きなお祭りのときには人とぶつからずに歩けないほどのにぎわいを見せていました。今では、商店主の高齢化も進み、以前のような元気がない地域も増えていますが、蕨駅周辺の再開発や、地域に残る文化資源など、「にぎわいのあるまち」に向けた要素はたくさんあると思います。
- 大切なのは、これからできるものを含め、蕨にあるもの、蕨らしさを活かし、情報でつないで、街を活性化させること、人の心や生活ににぎわいをもたらすことと考えます。市民・事業者・行政が協力して『街と人がにぎわうまち　蕨』を目指しましょう。

【現況と課題】

１．駅前と、中山道までのメインストリートには活力が必要です。

❖ 私たちが子どもの頃は、駅前にも、駅前から中山道に続くメインストリートにも、にぎわいがありました。その記憶からすると、今はにぎわいが足りないように感じます。駅前から続く商店街の再生、活力向上が必要です。

〈主な意見〉

・駅前や商店街のにぎわいが足りないように感じる。１日中人が歩き、昼も夜もにぎわうのが駅前ではないか？

・駅前から続く商店街の再生が必要。

・駅前の本屋さんがなくなった。まちの文化に通ずる本屋さんがないのは痛い。

・にぎわいのためだからと言っても、遊興施設はもういらない。

２．買い物が市内で完結するよう、各地域の商店には元気が必要です。

❖ 必要な施設や機能が、コンパクトにまとまっているのが蕨の良さです。しかしながら、各地域の個人商店などでは元気がなくなっており、商店主の高齢化が心配です。後継者不足などに対応し、元気を取り戻す必要があります。

〈主な意見〉

・市内で買い物が完結するのが蕨の良さ。

・商店街に住宅が増えている。

・個人商店などは元気がなくなっている。商店主の高齢化が心配である。

・後継者不足に悩む個人商店では、事業継承も必要ではないか？

・かつては、駅前以外の地域にも商店街があった。今は地域の名店情報が少ない。

３．にぎわいのシンボルとなるイベントや、イベント同士の連携が必要です。

❖ にぎわいのシンボルとなるイベントが必要だと思うのですが、他方では、一つのお祭りだけで勝負できるのだろうか？という想いもあります。これからは、イベント同士の連携や、蕨ならではの、例えば多文化共生を絡めたイベントがあればと思います。

〈主な意見〉

・シンボルとなる地域イベントが少ないと感じる。機まつり、昔はにぎわったが。

・一つのお祭りだけで勝負できるのだろうか？イベント同士の連携が必要では？

・夏祭りなど、昔ながらのイベントが良い。

・せっかく外国人が多いので、多文化共生に関するイベントがあったらよい。

・拠点となる大きな公園でのイベントをもっと活性化したい。

４．参加しやすい「にぎわいの場」づくりが求められます。

❖ 蕨には文化資源も多く、お祭りをはじめ地域イベントも多いのですが、参加者の層が限られるようにも思います。市外からの転入者や、中学生・高校生が参加しやすい場があればよいと思います。

〈主な意見〉
・蕨宿、和楽備神社、三学院など文化的資源が多い。
・地域資源・地域イベントの見える化が必要。活かし切れていない。
・参加者が限定的（年配の方・子どもがいる家族など）ではないか。
・市外からの転入者や、中学生・高校生が参加しやすい場があればよい。
・町会活動に若い人が少ない。参加しやすい環境づくりが大切。

５．情報発信で「街と人をつなぐ」必要があります。

❖ コンパクトな蕨の街には、たくさんの良いところ・魅力があると思います。しかしながら、それらは広く市民に、あるいは市外の人に知られているでしょうか？ 市民自らも情報を発信して「街と人をつなぐ」必要があろうかと思います。

〈主な意見〉
・自分で調べないとイベント情報などがわからない。
・宿場町の特色を活かしきれていないように感じる。もっと市内外への PR が必要。
・人口密度日本一（市）、成人式発祥の地、漫画などのカルチャーを発信すればよい。
・蕨市による PR 活動（シティセールス）が大切。
・SNS で市民が蕨の魅力を写真で UP するなど、市民自らの発信も大切。

目指すべき蕨市の姿

街と人のにぎわいのあるまち　蕨

❖ 【街】駅前と、中山道までの通りには活力が必要です。1 日中人が歩き、昼も夜もにぎわう「街」を目指すべきです。また、市内各地域の商店街や蕨らしい地域の名店などが元気で、これからも受け継がれていく「街」を目指したらよいと思います。

❖ 【人】にぎわいのシンボルとなるイベントづくりが必要です。現状では、高齢者と小さな子どもを持つ家庭向けの催しが多いように感じます。外国人が多い蕨市ですから、多文化共生につながる企画なども増やしたいところです。

❖ 【街と人】大切なのは情報発信です。蕨市による PR 活動（シティセールス）も大切ですが、市民一人ひとりの情報発信も、街と人をつなぐためには大切です。

未来を実現するために必要な取組

1．ハードとソフトで、にぎわいの核となる地域を活性化しましょう。

❖ 駅前では、『蕨駅西口地区第一種市街地再開発事業』が進行中であり、新しいにぎわいの核として期待されています。そこで、駅前から中山道までのメインストリートなど、核や軸となる地域にはにぎわいの空間をつくったらどうでしょうか。

❖ 活性化に向けては、ハード事業のみならず、にぎわいを生むソフト事業が大切です。このため、にぎわいの担い手の発掘や育成、市や JR などとの協働などを進めましょう。

〈主な意見〉

・蕨駅前の大規模開発事業など、ハードは計画通りに進める。

・駅前や中山道までのメインストリートなど、にぎわいの核となる地域にはイベントを開催可能な広場を設けるなどして、にぎわいの空間をつくる。

・駅前などに、キッチンカーのスペースを設ける。蕨市で出店を考えている人優先で。

・駅前でのライブ（音楽や大道芸）など、にぎわいを生むソフトを大切にする。また、だれでも弾けるストリート・ピアノやストリート・ライブスペースなどもあれば面白い。大道芸は、だれでも気軽に参加できる“参加のハードルが低い”発表の場となり得る。

・にぎわいの担い手（町会、企業、若手有志など？）の発掘や育成、市役所や JR などとの協働を進める。

2．蕨らしい地元のお店が元気な街をつくりましょう。

❖ 私たちが提案する「にぎわい」には、“蕨らしさ”が大切です。このため、商店主の高齢化が進む個人商店については、事業継承を促進したり、空き店舗をテナントとしてさらに活用できる仕組みを市や商工会議所などが整備したらどうでしょうか。

〈主な意見〉

・新しい人が入り、受け継がれるよう、事業継承を促進する。

・空き店舗をテナントとしてもっと貸せる仕組みを、行政や商工会議所などで整備する。

・子どもが買い物できる、子どもが体験できる環境を整備する。

【提案：蕨のまち全体がキッザニア！！】※P21 で説明

買い物の場としてだけでなく、蕨のまち（特に商店街）を「体験の場」と捉えれば、子どもから大人まで、幅広い人たちが“にぎわいづくり”に参加できる。蕨には消防署も警察署もあるので、対象を広げバリエーション豊かにすることも可能。

３．人のにぎわいを生むシンボルとなるイベント、多くのイベントを育てましょう。

❖ 例えば機まつり、宿場まつりなどをさらに活性化し、お祭りで駅前と中山道をつないだらどうでしょうか。小さなイベントの育成と見える化も必要です。

〈主な意見〉
・お祭りで駅前⇔中山道をつなぐ。
・中山道の他の宿場町とのコラボイベントを企画すれば、市外へとひろがる。
・機まつり、宿場まつりなどシンボルとなるイベントの運営を改善して活性化する。
・お祭りなどのイベントに、地元のお店が出店しやすいようにして参画を促す。
・小さなイベントも含め、蕨の地域イベントを網羅するカレンダーがあればよい。

４．蕨らしい文化を活かして人の交流を活性化しましょう。

❖ 地域の文化や多文化共生に関するイベントを周知する、歴史文化を感じさせるような特産品、食べ物を広めるなど、蕨らしい文化を活かして交流を活性化しましょう。

〈主な意見〉
・蕨の地域資源、特に文化資源を活かし、交流の機会を創出する。
・例えば、神社・お寺のイベントを PR して、これまで関心がなかった人々にも周知して来てもらいやすくする。また、歴史・文化を感じさせるような特産品、食べ物を広める。（なければつくる。）
・外国人の多さが特徴なので、多文化共生型の交流機会を積極的に設ける。

５．情報を見える化し、発信して、にぎわう市民、来訪者（移住者）を増やしましょう。

❖ 情報発信はとても大切です。蕨は小さなまちですが、それゆえに、だれもが参加者・発信者になり得ます。行政だけでなく、市民からの積極的な発信を促しましょう。

〈主な意見〉
・蕨はコンパクトなまちなので、『わらびのまちの DX 化』を進めて特徴を出す。
・これまで通りの情報発信も必要。そこで、人が集まる蕨駅を情報拠点とする。
例えば、おみこしの担ぎ手を募集する告知ポスターの掲出など、アナログでも目につきやすいやり方も大切。通勤・通学者や、パソコンを使わない方でも目につく。
・JR と協議し、蕨駅の旧みどりの窓口のスペースを有効活用する。
・蕨市による PR 活動（シティセールス）の充実だけでなく、市民自らの情報発信を促す。例えば、市民が蕨の魅力を写真に撮り SNS で UP するコンテストなど。
・蕨の文化を活かした発信、著名人の協力を得ての発信に努める。例えば、蕨の町並みが描かれている「さよなら私のクラマー」、織姫などに蕨をもっと PR してもらう、アルフィーの高見沢さんに PR 活動に協力していただく、など。

取組実現のために

- 私たち第３班は、蕨らしい地域資源を大切に活かしながら、行政（蕨市役所）だけでなく、広く市民（特に子どもや若い人が関心を持つことが大切）、外国人住民、蕨のまちに関係する民間企業、地元商店、町会、商工会議所などの団体、地域の若い担い手、著名人（蕨市出身者など）などの参画により、『街と人のにぎわいのあるまち　蕨』を実現していくことが大切と考えます。
- ここでは、Ｐ19 で掲げた提案『蕨のまち全体がキッザニア！！』を例に、実現に向けた役割分担などを記します。まず、企画するのは、若者（成年式実行委員会経験者など）が良いでしょう。次に対象者（参加者）ですが、対象は就学前の子ども～小中学生～高・大学生までとします。
- 協働の主体となるのは、商店街の有志や商店会（商店街）です。市は、対象者の体験の場として病院・消防・図書館・市役所（窓口体験など）が参加するほか、子ども、教育、商業振興などに関わる課がサポートします。県（警察署が体験の場となるほか、対象者がまちを歩く際の安全確保も依頼）や JR との協働も必要でしょう。
- 『蕨のまち全体がキッザニア！！』実施のタイミングは、蕨市役所新庁舎の供用開始後が、インパクトがあって良いでしょう！

第４班より　テーマ４　みんなで支え合うまち

私たちの想い　～提言の背景と概要～

- 私たち第４班は、「みんなで支え合うまち」というテーマで話し合いました。「みんなで支え合う」蕨市を実現するためには、何が欠かせないでしょうか？それは、人と人との交流や、情報共有です。
- 私たちは、その「みんなで支え合うために不可欠であること」について、多くの時間を掛けて議論しました。知らない人でも声をかけてくれるまちが良い、世代間の交流がほしい、異文化間のコミュニケーションが不足していないか、などです。
- 私たちの蕨市は、コンパクトにまとまり、各地域におけるコミュニティ活動も盛んな地域です。しかしながら近ごろでは、少子高齢化が進み、外国の方も増えてきた中で、交流不足も感じています。
- そこで私たちは、市民同士の交流と情報共有を根底に置きつつ、『みんなで助け合い・学び合うまち』を実現するよう提言します。多世代・多文化の交流により、みんなが助け合い、市民それぞれのよい点をお互いが学び合うまちを目指しましょう。

【現況と課題】

１．身近な医療の確保が求められます。

❖ 市立病院は施設の老朽化が進んでおり、設備も古くなっています。また、日本語が得意でない外国人住民にとって医療機関の受診が言語の面で難しいものになっています。

〈主な意見〉

・市内の大きな病院といえば市立病院しかないため、常に混雑しており受診に時間がかかる。老朽化が激しく、設備も古い。

・病院など公共施設のバリアフリー化があまり進んでいない。

・問診票や診療において、外国人住民への対応が不十分である。

・診療でのやりとりや病院選びで困った経験がある（外国人住民として）。

２．学び・スポーツに親しむ機会づくりが大切です。

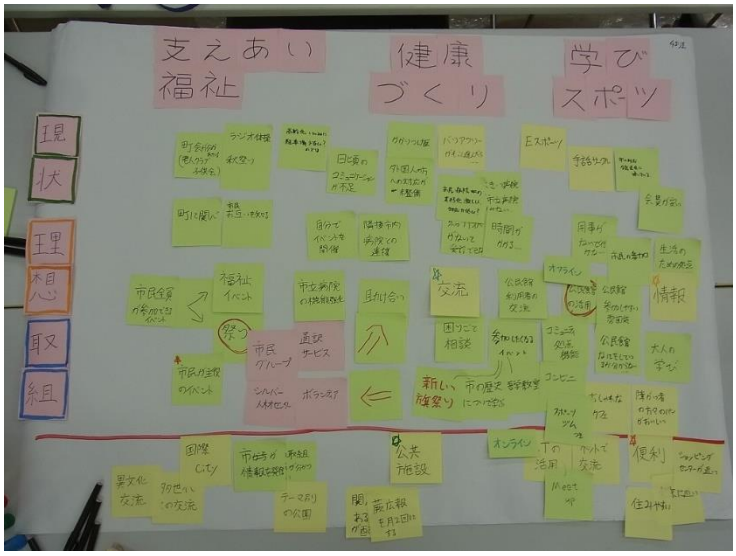
❖ 市およびその委託を受けた NPO 団体等により様々な学び・スポーツに親しむ機会が提供されているものの、その情報が関心のある市民に届ききっていないように見受けられます。情報発信手段の多様化が必要であると考えられます。

〈主な意見〉

・市の施設を活用した合気道クラブに子どもが通っているが、会費が安くて助かる。

・公民館では様々なサークル活動やイベントが行われているが、利用したことがない人（新しく蕨市に転入してきた人、外国人住民など）にとっては何をしているかわからない。

・ｅスポーツなど、新しいスポーツを普及・促進できないか。



３．支え合いのためには、まず交流が重要です。

❖ 公民館や市主催のイベントなど、市民の交流の拠点となり得る場はあるが、これらが十分に機能していないように思われます。公民館が、コミュニティ拠点としての役割をさらに果たせるようにすることが大切です。

〈主な意見〉

・市民の日頃のコミュニケーションは不足していると感じる（働き世代、高齢者、外国人等）。

・町会は有効な交流の場であるが、老人会、子ども会などに分かれているため、同世代の人としか交流ができない。

・ 市民が、お互いを知り、蕨市への関心や愛着がもてるようなイベントが必要である。

・ 市民間の交流が盛んに行われることで、市民の困りごとの多くが解消する。

・ 公民館が、市民のコミュニティ拠点としての役割を果たせる。

・ 異文化交流の場があると良い。

４．IT を活用したさらなる情報発信が必要です。

❖ 市の取組やイベント等の情報が、情報を必要とする市民に十分に届いているとは言えず、情報発信手段も含め IT 技術を活用した個人の関心に合わせた情報発信が必要だと思われます。

〈主な意見〉

・市の取組やイベント等の情報がわかりにくい。

・年代、属性によって興味のある情報を発信するのがよいのではないか（プッシュ型）。

・Meetup（※）などのアプリケーションを利用して、市民が独自でイベントを開催すればよい。

（※）共通の地域や興味に関するコミュニティを簡単に始め、運営することを可能にするプラットフォームサービス。

目指すべき蕨市の姿

みんなで助け合い・学び合うまち

- 市民が抱える日々の悩みや課題の多くは、市民同士の助け合いで解消されます。
- そこで、市民が主役のイベントやサークル活動を展開し、多世代・多文化の交流を促進することにより、みんなが助け合い、市民それぞれのよい点をお互いが学び合うまちを目指します。
- そのためには市民の交流が不可欠であり、コミュニティ拠点として公民館が重要な役割を果たすと考えます。

未来を実現するために必要な取組

１．市立病院の機能強化をしましょう。

- 市立病院の改修や最新機材の導入を通じて、より多くの症状に対して市立病院で処置をできるようにすることが必要ではないでしょうか。また、医療通訳サービスや自動通訳機の設置により、多言語での診療に対応することも求められています。
- 上記に対応できるよう、市立病院の機能を計画的に強化したらどうかと考えます。

〈主な意見〉

・老朽化した建屋の改修や新しい設備の導入を実施し、市民が安心して通える市立病院を目指す。

・問診表の多言語化や通訳サービス（ボランティア）の活用など外国人住民の受診時の困りごとを軽減する。

２．公民館のコミュニティ機能を強化しましょう。

❖ 公民館を市民交流の拠点にする（市民が気軽に立ち寄れる場所にする）ために、その設備・機能を多様化するよう提案します。

❖ また、公民館で実施されるイベント等の情報について IT を活用し市民個々人の興味に合わせて発信できる体制を整えるようにしたらどうかと考えます。

〈主な意見〉

・公民館におしゃれなカフェを併設し、市民の憩いの場とする。

・コンビニやジムなど公民館に通いたくなるような付加価値機能を付ける。

・公民館活動のイベント・サークル情報は IT を利用したプッシュ型の情報発信を行う。

出典：蕨市ホームページ

３．市民が主役のイベント開催や、新しいサークル活動を促しましょう。

❖ 市民が主体となるイベント開催の一例として、市民が講師になる講座（学び・スポーツなど）の開催があるのではないかと考えます。

❖ 講座の内容については、コンペ形式で公募することも一案かと思います。

〈主な意見〉

・市民が主役の“新しい機まつり”の開催。

・市民が参加したくなるような講座を開催（市の歴史について、語学教室、料理教室など）

・ｅスポーツなど、新しい講座やイベントの開催に積極的に取り組む。

取組実現のために

- 私たち第４班は、「みんなで助け合い・学び合うまち」の実現に向けて、蕨に関わる様々な人々の参加と協働が必要だと考えています。例えば、市民が抱える日々の悩みや課題の多くは、市民同士の助け合いで解消されると先に書きましたが、この場合は、市民一人ひとりが実現に向けた担い手と考えられるわけです。
- まず、市民・地域としては、市民一人ひとり／市民グループ／ボランティア団体／／公民館利用団体／シルバー人材センター／通訳サービス（ボランティア）／ｅスポーツなど新しいスポーツに取り組む個人や団体／カフェ・コンビニ・ジムなどの民間事業者などの参画が重要です。
- 次に、市としては、市立病院／公民館／生涯学習やスポーツ振興の担当課などの参画が必要であり、上記に挙げた市民・地域の自主的な活動を促しながら、幅広い協働を展開していくことが必要であると思います。